

伝統的なポルトガル乗馬アートがベレンに帰ってきました

について



08.19.15

7月に、Portuguese School of Equestrian Art (ポルトガル馬術アート・スクール、EPAE) は、パルクス・デ・シントラ・モンテ・ダ・ルーア (Parques de Sintra – Monte da Lua) の管理のもとに、ベレンのアジュダ通りにあるエンリケ・カラド乗馬ホール (Picadeiro Henrique Calado) で、一般に公開されるレギュラーパフォーマンスとトレーニングセッションのプログラムを開始しました。

この町の中心では、人々はトレーニングセッションだけでなく毎週のパフォーマンスとガラに参加する機会が得られます。トレーニングセッションでは、ピジターは毎日騎手によって行われる作業を見ることができ、またパフォーマンスでは、特別に選ばれた音楽の中でカラーセル、ロングライニング、地上からのエアなどの様々な振り付けや訓練も行われます。ガラの中で特別な日や出来事を祝うために行われる大規模なショーでは、シナリオに華麗さを追加するための照明やサウンド効果を伴う様々なパフォーマンスが行われます。

EPAEは、ヨーロッパの4つの伝統的な馬場馬術スクールの1つで、1979年に設立され、ポルトガル馬術アートの様式の教育、実施、育成という特別な目的を持っています。またEPAEは、19世紀に閉鎖されたポルトガル宮廷の馬術アカデミーであるPícaria Real (王室厩舎) から受け渡されたレガシーを守っています。カンボ・グランデにあるSociedade Hípica Portuguesa (ポルトガル乗馬カンパニー) での時期の後、Escola Portuguesa de Arte Equestre は、1996年にケルースのナショナルパレスにある新しい構内に移設しました。そこでは一般に公開されている定期的な演技が行われています。

エンリケ・カラド乗馬ホールへの訪問では、ポルトガルの歴史を遡って旅をする機会が提供され、そこではLusitanos da Coudelaria de Alter (アルター・リアル・スタッド・ファーム) で生産されているリシターノ種の馬の美しさを持続させている時間を体験できます。この品種は古典的な馬場馬術で18世紀以来使用されてきました。この品種によって、バロック期に行われた古典的な馬場馬術のエキササイズや宮廷競技を形作るエキササイズ (祝祭を記念して行われる16世紀から19世紀の間のトーナメント) が行われてきました。この体験は、騎手と馬が装着する衣装、鞍、馬具によってより深まります。またそれは、毎日のトレーニングに使われる通常の作業バージョンか、毎週の演技やガラパフォーマンス用に着用されるガラバージョンかにはかわりません。なぜなら、それらは初期のポルトガル馬術アートで使用されていたものと同じだからです。

詳細な情報はwww.arteequestre.ptをご覧ください。